

ストックホルム世界水週間 2025 アジア・太平洋フォーカスセッション

2. アジア太平洋における早期警報:科学と行動の橋渡し

8月26日(火) 9:00 - 10:30 CEST(日本時間 16:00~17:30)会場 Room C1, Level 2/オンライン

セッション概要:

気候変動への対応に不可欠な早期警報システム(EWS)については、技術の進展があるにもかかわらず、現在その恩恵を受けられるのは世界人口のわずか65%にとどまっています。特に開発途上地域においては、こうしたシステムへのアクセスに大きな格差が存在しています。「すべての人のための早期警報(Early Warnings for All: EW4All)」イニシアティブは、2027年までにこの格差を解消し、タイムリーで実行可能、かつ地域に根ざした災害リスク情報を届けることを目指しています。

アジア太平洋地域では、気候変動が引き起こす災害により、人命と経済の両面で深刻な脅威が生じており、地域の強靭性(レジリエンス)を高めるには、統合的な管理アプローチが不可欠です。

本セッションでは、早期警報システム(EWS)のギャップを解消するための解決策を探ります。マルチステークホルダーの協力、デジタル・宇宙技術の革新、ガバナンス改革を重視し、地域主導の影響重視型アプローチや科学と社会のつながり強化を通じて気候レジリエンスを高めます。専門家が事例や実証済みの戦略を紹介し、「EW4All」イニシアティブの4本柱に沿った取り組みを通じて、誰一人取り残さない、明確で実行可能かつ包括的な警報の発信と備えの向上に貢献します。

共催機関:

- ・ アジア災害防止センター(ADPC)
- ・ オーストラリア水パートナーシップ(AWP)
- ・ 国際総合山岳開発センター(ICIMOD)
- ・ 国際水管理研究所(IWMI)
- ・ 宇宙航空研究開発機構(JAXA)
- ・ 韓国環境研究院(KEI)

プログラム

9:00-	セッション紹介
9:02 CEST	朝山 由美子 アジア・太平洋水フォーラム(APWF)/日本水フォーラム チーフ マネージャー

9:02- 9:10	<p>基調講演: ステファン・ウーレンブルック氏 世界気象機関 (WMO) 水文・水・雪氷圏局長</p>
9:10- 9:35	<p>パネル 1: 科学、技術、データ、インフラ</p> <p>パネリスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ギリラジ・アマルナス氏 国際水管理研究所 (IWMI) 気候レジリエンスのための水データ 研究グループリーダー/災害リスク管理・気候レジリエンス主席研究員 ● セナカ・バスナヤケ氏 アジア災害準備センター (ADPC) 気候サービス プログラムリーダー ● 沖理子氏 JAXA 第一宇宙技術部門 地球観測統括付 シニアアドバイザー <p>モデレーター</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ケラン・ワン氏 国連アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) 災害リスク削減セクション担当官、宇宙応用セクション長、ICT・災害リスク低減局
9:35- 10:10	<p>パネル 2: コミュニケーション、地域社会の参画、地域主導の行動、ガバナンス、投資</p> <p>パネリスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ● サラ・ランサム氏 オーストラリア水パートナーシップ ゼネラルマネージャー ● キム・イクジェ氏 韓国環境研究院 水・土地研究グループ 主任研究員 ● ニーラ・シュレスタ・プラダン氏 ICIMOD 水・適応シニア専門家/雪氷圏・水担当長 ● ギリラジ・アマルナス氏 国際水管理研究所 (IWMI) <p>モデレーター</p> <ul style="list-style-type: none"> ● タナポン・ピマン氏 スtockホルム環境研究所 (SEI) アジア シニア・リサーチフェロー <p>パネル 1 および 2 の登壇者と基調講演者による合同討論</p>
10:10- 10:25	<p>質疑応答 (聴講者との対話)</p>
10:25- 10:30	<p>セッション総括: 登壇者からの最終的な主要メッセージ</p>